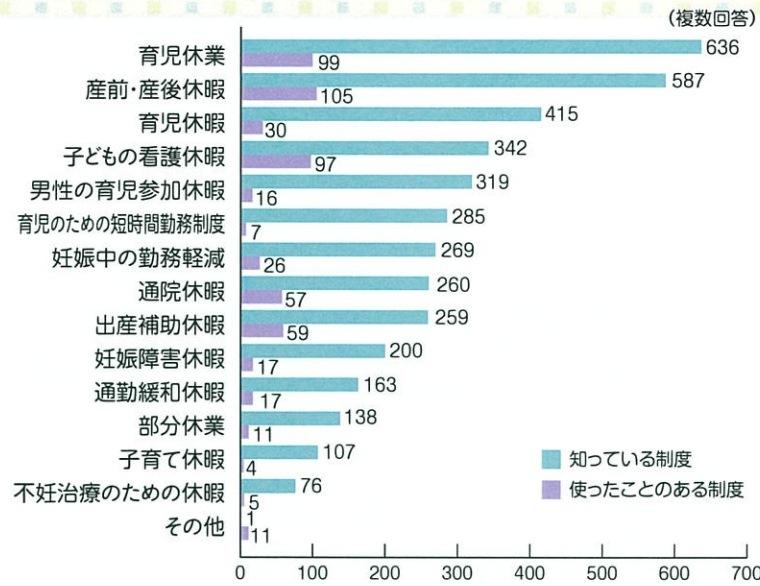


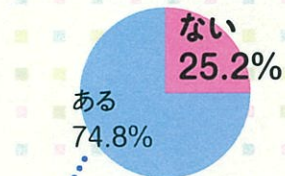
# 妊娠・出産・子育てにかかわる制度について

## 制度を知らない 知っていても使いにくい

青年教職員の4人に1人が、制度を知るための研修や機会が「ない」と答えています。また、制度があっても「取得しづらい」ことが大きな問題です。

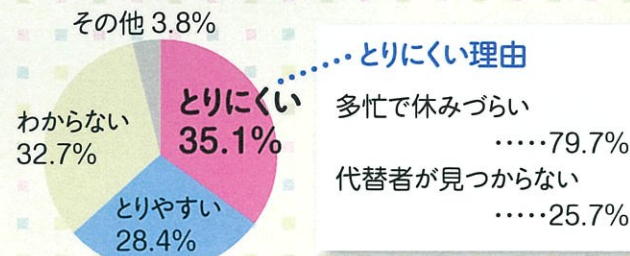


制度を知る機会がないことも…  
制度を知る機会や研修は…



どこで誰から知ったか  
管理職から …… 36.8%  
組合から …… 35.6%  
同僚から …… 21.8%  
事務職員から …… 19.0%  
研修で …… 13.8%

## 制度の取得がしやすいですか



子どもが病気で保育園へいけない時にいつも困ります。両親もまだ仕事をしているので、急には休めません。学校を休むと1日中クラスの児童は自習になり、空きの先生に入らせていただくので、とても休みづらいです。

教員定数が少なく、小さな子どもがいても部活(正顧問)を持たなくてはならず、早く帰りづらい。

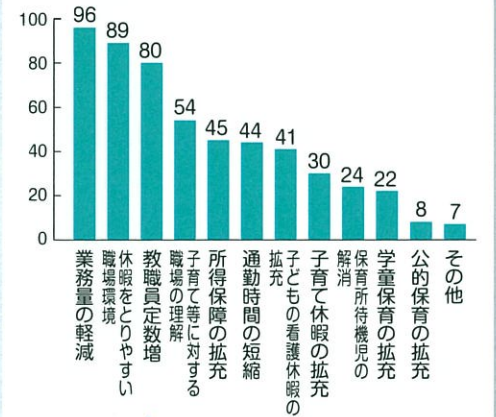
妊娠した先生が「周りに迷惑がかかる」という理由でギリギリまで周りに黙っていました。本人を苦しめていた上に助けがあげられなかった後悔があります。権利があるのにとれない環境はつらいし、私自身も妊娠したらとりづらい…と感じます。

# 仕事も子育ても両立したい

仕事と子育てを両立させて働き続けるために、制度の充実とともに、制度を使用できる条件整備を求める声が寄せられています。



## 要求したい支援や制度 (複数回答)



「妊娠したいなあ」「子どもがほしいなあ」と思っていますが、今の勤務状況、仕事の量だと無事に乗り越えられるのか、妊娠自体本当にできるのか。とてもとても心配です。

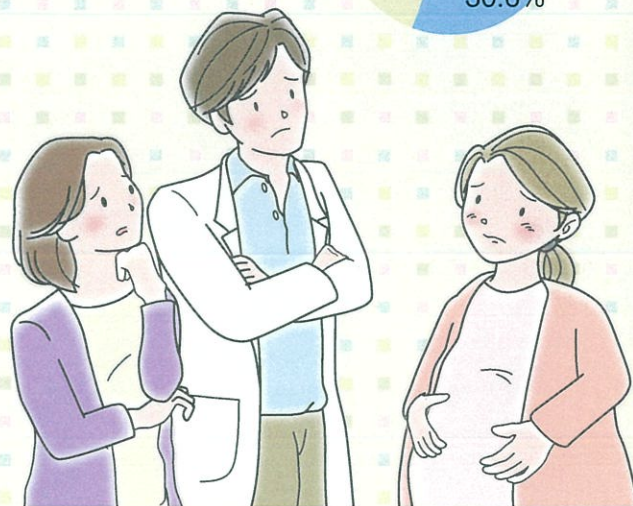
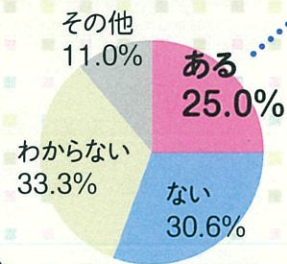
妻の出産に伴い、来年度、育児短時間勤務制度を取ろうかと考えて、管理職に相談中です。「前例がない」「聞いていない」ということで今後もハードルがありそうです。「代替が見つからないからあきらめて」と言われないように、お願いし続けていますが不安です。

教職員をしながら、母親業もこなすのは至難の業だと感じます。どうか少しでもこの状況が改善されるように職員の増員をしてください。

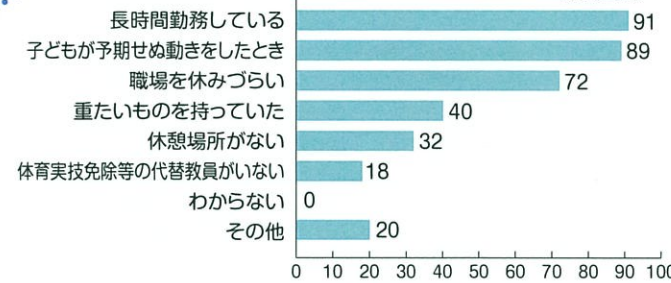
## 母体に危険が… 休憩室もない…

## 妊娠中の 教職員の母体が 危険だと 感じたこと

周りも本人も気づかないうちに、母体が危険な状態に置かれている実態があります。母体を保護するためには、代替者の配置や仕事の軽減、休憩室の整備などの配慮が必要です。



## その理由

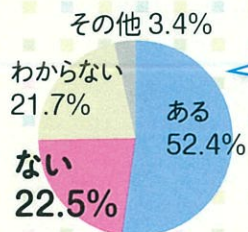


3クラス中、2クラスで同時期に妊娠。すぐに体育講師が見つからず、僕が合同体育をした。結局1人が流産、もう一人も切迫流産のおそれありで緊急入院。それほどまでに職場は妊婦さんにきびしい!

妊娠中の先生が徒歩での引率にされていた。夏の暑くて大変な日だった。

担任をしているとどうしても仕事を休みづらい。また無理をしてしまう。結果、私の場合は切迫早産になり、急きょ休みを多く取ることになってしまった。

## 教職員用の休憩室が



妊娠中の職員が休憩を取る部屋がありません。保健室で休憩していただいたりしていますが、子どもが入ってくる部屋では、安心して休むことが出来ないように思います。